



国民春闘共闘

2023年度 第20号

2023年5月16日

国民春闘共闘委員会

〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館

☎ 03-5842-5621 FAX 03-5842-5622

23 国民春闘共闘賃上げ第6回集計

単純・加重平均ともに上昇傾向

国民春闘共闘委員会（全労連、純中立労組懇、地方共闘などで構成）は5月11日、第6回目の23春闘賃上げ集計及び第3回進ちょく状況調査を行いました。

<回答状況>

	2023年	2022年同期
回答引き出し組合	1063	1182
うち 有額回答	643(60.5%)	701(59.3%)
うち「定昇確保」など言葉による回答	420(39.5%)	481(40.7%)
うち 2次回答以上の回答	160(15.1%)	129(10.9%)
うち 妥結組合	471(44.3%)	438(37.1%)

<要求と回答内容>

集計方法&対象		2023年要求	2023年回答	2022年同期	同期比
単純平均	額(円)	30,156	6,491	5,981	+510
	率(%)	9.81	2.47	2.11	+0.36
加重平均	額(円)		6,322	5,410	+912
	率(%)		2.18	2.01	+0.17
	組合員数		77,806	89,766	

<前年実績との比較が可能な組合における金額・率の比較>

		組合数	前年実績以上	前年実績超	23年回答	22年実績	実績比
単純平均	額(円)	515	373(72.4%)	328(63.7%)	6,605	5,511	+1,094
	率(%)	296	194(65.5%)	186(62.8%)	2.46	2.05	+0.42

<非正規の仲間の回答状況>

		時給制	月給制	再雇用・時給制	再雇用・月給制
単純平均	額(円)	30.1 (23.2)	4,324 (3,800)	38.1 (31.6)	3,722 (3,828)
	率(%)	2.96 (2.67)	2.68 (1.66)	2.93 (2.24)	1.95 (2.73)

※額または率のみの報告があるため、双方は連動しません。

※言葉による回答は平均などの計算から除いています。

※非正規の仲間の回答状況のカッコ()内は前年度最終集計の結果

<集計結果の概要>

回答引き出し・妥結状況

ゴールデンウィーク明けの5月11日に行った第6回集計には、別表の26単産・部会2191組合のうち1063組合(48.5%)から回答引出しの報告が寄せられました。そのうち金額もしくは率が明らかになっている有額回答を得たのは643組合(60.5%)で、420組合(39.5%)は「ベア獲得」「定昇確保」など言葉による報告となっています。

回答引出し組合のうち、15.1%にあたる160組合が2次回答以上の上積み回答を引き出しており、前年同期(2022年5月12日時点)を31組合・4.2割上回っています。最高次数はJMITU、日本医労連の組合での6次回答で、5次回答が4組合、4次回答が8組合と続いています。

妥結組合は471組合で、回答引出し組合の44.3%となりました。昨年同期と比べ33組合・7.2割多くなっています。

回答内容

有額回答を引き出した643組合での単純平均(一組合あたりの平均)は6,491円・2.47%で、前回調査(4月20日:6,456円・2.42%)を35円・0.05割伸びました。前年同期比(2022年5月12日時点:5,981円・2.11%)では510円・0.36割上回っています。

加重平均(組合員一人あたりの平均)は6,322円・2.18%で、前回調査(6,070円・2.08%)から252円・0.1割増え、前年同期(5,410円・2.01%)を912円・0.17%上回りました。

JMITUの2組合が3万円を超える賃上げを実現したほか、建交労、JMITU、出版労連の各2組合、全倉運1組合の計7組合が2万円台を獲得。5桁回答を引き出したのは107組合となりました。JMITUや化学一般労連、全印総連、民放労連、出版労連などに続き、春闘前半戦に春闘後半戦に入り、全倉運や映演労連、建交労の学童保育、建設関連労連などでも高額回答が引き出されています。

産業別に見ると、依然として鉱業・建設業、製造業、マスコミ関係業で高水準となっている一方、医療、社会福祉・介護などが厳しい回答状況となっています。

前年実績と金額で比較可能な515組合の回答状況を見ると、6割強の組合が前年実績を超える回答を引き出しています。今期の単純平均額は6,605円で前年実績比1,094円増となっています。率でも6割強が前年実績を超え、単純平均で前年実績を0.42割上回る2.46%となりました。

パートやアルバイトなど非正規雇用で働く仲間の賃上げ状況

非正規雇用で働く仲間の賃上げ状況は、12単産177組合から360件の獲得報告が寄せられました。

233件の獲得となった時給制労働者での賃上げ額は、183件の単単純平均で30.1円となっています。率では40件平均で2.96%です。生協労連では多くの組合が2次、3次の上積み回答を引き出しています。

月給制労働者は54件の獲得報告が寄せられ、引き上げ額が判明している50件の単純平均額は4,324円となり、前回調査比(45件平均4,211円)113円増となりました。引上げ率は17件平均で2.68%と前回調査から動きはありません。

再雇用者の賃上げ獲得は時給制で 36 件、月給制で 33 件といずれも前年実績を超える件数を勝ち取っています。時給制での引き上げ額は 35 件平均 38.1 円、引上げ率では 11 件平均 2.93% となっています。月給制では引き上げ額は 27 件平均 3,722 円、率では 12 件平均 1.95% です。

「定年後嘱託者に月 15,920 円・6.37%の賃上げ」、「再雇用者の賃金を月 10,000 円引上げ」といった報告も寄せられています。

企業内最低賃金協定の改定状況

企業内最低賃金協定の獲得状況は、別表の 9 単産 73 組合から獲得報告が寄せられました。時間額の改定は 93 件で、新協定額は 89 件平均で 1,046 円と前回調査と同水準となっています。生協労連、出版労連では時間額 1,500 円以上を実現している組合もあります。

日額改定は 19 件の獲得で 8,480 円、月額改定は 25 件の獲得で、新協定額は 24 件平均 176,338 円となりました。

第 3 回進ちよく状況調査

第 6 回賃上げ集計に合わせて、要求提出状況、ストライキ権の確立・実施状況などについて調査する第 3 回進ちよく状況調査を実施しました。5 月 11 日現在、別表の 18 単産から報告が寄せられています。

調査組合 2486 組合のうち、要求提出が確認できているのは 1483 組合・59.7%となっています。要求提出率は、4 月 6 日時点の前回調査 53.4%から 6.3 ㊦上昇しましたが、前年同時（2022 年 5 月 12 日：61.4%）を下回っています。合同繊維、検数労連、全倉運、全損保、郵政ユニオンが要求提出率 100%となっています。

ストライキ権の確立は 1247 組合・56.9%と前回調査からほぼ横ばいで、前年同期 1.2 ㊦上回っています。

要求提出組合の 76.1%にあたる 1128 組合が回答を引き出し、前年を大きく上回る組合でベースアップを勝ち取っています。全損保では回答を引き出した 7 組合でベースアップもしくはベースアップ相当の賃上げを実現しています。全農協労連の組合でも連休以降にベースアップを引き出しています。

ストライキは 189 組合でのべ 252 回行われています。日本医労連の全国組合を行動単位で算出すると 372 組合でのべ 435 回のストライキ決起となりました。

春闘後半戦に入ってからストライキを背景にたたかいが進められています。映演労連の組合では 5 桁回答を引き出すも「これでは物価高騰に追いつかない」と 20 数年ぶりに 3 月の統一行動日以降にストライキに立ち上がり回答上積みを迫りました。

要求提出している 1483 組合のうち、妥結・妥結方向なのは 499 組合・33.6%です。化学一般労連や出版労連、検数労連、全倉運、JMITU、建交労では収束方向となっていますが、これから本格的な交渉に入る組合もあり、引き続きの奮闘が期待されます。